

# 令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立 栄 中学校  
(令和8年1月21日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え、行動する生徒 ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ・健康で、たくましい生徒 ○目指す学校像 ・一人一人がかけがえのない存在として大切にされる学校 ・人権や生命が尊重されお互いを認め合う「いいところ探し」の学校	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
○幼保小中一貫教育の推進 ○地域と共にある学校づくりの推進 ○学年・学級経営の充実 ○補習学習の充実（朝、放課後補習） ○豊かな心を育む指導の充実 ○積極的な生徒指導・教育相談の推進 ○健康な体づくりの推進 ○特別支援教育の推進	成果 ○研究発表を通して、学校全体として自己肯定感・自己有用感を育む授業実践に取り組んだ。 ○教育相談における支援が必要な生徒について、相談員・SC・SSWとの連携によって対応した。 課題 ●学校における生徒の取り組みや発信すべき情報について、学校ホームページの更新・活用が不十分であった。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	A	○学校教育目標・グランドデザインに沿って、校務分掌を組織し、相互に連携しながら運営できた。 ●業務量や難易度の度合いを考慮し、次年度以降の組織を見越した校務分掌の担当配置を検討する。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	A	○県学力・学習状況調査の帳票活用や、学力向上プランの見直しなどを通して、組織としての授業力・教育力の向上に努めた。 ●学力向上を担当する分掌を確立し、研修担当との連携のもと、人材育成組織的に取り組む。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	○全学年で計画的にこの年の学習を実施できた。 ○地域と連携して避難所運営訓練を実施できた。 ○授業者による不審者対応訓練を実施できた。 ●地震・火災対応について、特別教室での実施も含め、学校の実情に合わせた実践的な訓練を検討する。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	○年度当初に校内の情報管理規定を全体で確認し、情報機器（記録用USB）の導入・管理を組織的に行った。 ●ネットモラルに関する集会に加え、各学年の保護者会においても組織的に情報提供を行い、継続してネットトラブルの予防に取り組む。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	A	○PTAと連携して行事を運営できた。避難所運営市民防災訓練や学校開放団体と協力した敷地内の美化活動を通して、地域との連携を深めた。 ●縮小傾向にあるPTA活動の活性化のため、役員会等で学校の実情に合った方策を検討する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	A	○小中連携読み聞かせや音楽乗り入れ授業、幼保のどんぐり拾い交流を通して、校区内の連携を深めることができた。 ●幼保小中を一貫した教育という視点での新たな取組を推進委員会等で検討する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<p>○学校教育目標の達成度について、教職員・保護者・生徒とも「当てはまる」「よく当てはまる」が85%以上であった。</p> <p>●各教科との連携のもと、時数と進捗状況をより丁寧に把握し、教育計画を作成する。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<p>○指導員間・授業研究会・研修を通して学校全体としてリフレクションシートを活用した授業参観・フィードバック・学力向上プランの見直しを実践・共有した。</p> <p>●教科会をより計画的に実施し、指導方法や効果的な実践等を共有し、学校としての授業力向上に取り組む。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<p>○全学年、発達段階に応じたいのちの学習を計画的に実施することができた。</p> <p>●道徳のローテーション開始の時期や内容について道徳指導教師を中心として検討し、学校全体として生徒に道徳的実践力を育成する機会を確保する。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	B	<p>○合唱コンクールや自然教室等、学校行事を通じた話し合い活動を多く実施できた。</p> <p>●自治活動としての、より主体的な生徒会活動や、各学年での計画的な学級活動・優れた実践の共有を図る。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	A	<p>○職業体験3daysや避難所運営市民防災訓練、いのちの学習、卒業生と御格を学ぶ会を通して、地域の人材を活用できた。</p> <p>●PTAや学校運営協議会との連携を活かし、地域との関わりを通じた教育活動を推進する。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<p>○生徒指導部会や教育相談部会、いじめ防止対策委員会を計画的に実施し、SCやSSWとも連携して生徒指導上の問題に対して組織的に対応できた。</p> <p>●相談に対して傾聴する姿勢をより大切にし、支援を必要とする生徒への手立てを充実させる。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	A	<p>○職場体験学習3daysにより、生徒の「働くこと」への意識を、実体験を通して高めることができた。</p> <p>●御格指導について、進路により進路情報の発等を充実させ、信と保護者への周知を、より丁寧に行う。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○行事や兄弟学級への授業参加を通して、個別に充実した支援が展開できた。</p> <p>●相談員・養護教諭・SC・SSWと一層の連携を図るとともに、措置替えへの丁寧な引き継ぎ・準備を実践する。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○司書教諭が中心となり、学校司書と連携しつつ読書週間等、生徒の読書促進に努めた。</p> <p>●授業で図書室が活用できるよう、各教科と連携して取り組みを検討する。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○授業内でICTを積極的に活用できる環境を整備することができた。</p> <p>●生徒がICTを活用して取り組む授業実践のスキルを学校全体として向上させる。</p>

①人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○人権作文、標語の作成に加え、教職員が校内研修を通して人権意識の醸成に取り組んだ。</p> <p>●研修を生かし、様々な生徒への声掛け等を事例とし、日常における人権意識の必要性を共有する。</p>
-------	--	---	---

(様式2・中学校用③)

草加市立 栄 中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の活用</li> <li>・保護者との連携</li> <li>・関係諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○学校運営協議会を計画的に実施し、校舎の建替え等、積極的な意見を聞いた。</p> <p>○HPの内容を一新し、生徒の様子を多く発信することができた。</p> <p>●PTAの活動縮小に伴い、持続可能な活動を検討・実行する。</p>
	②幼保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年間の系統的教育の実施</li> <li>・異校種間交流の推進</li> </ul>	A	<p>○小中連携で挨拶運動や読み聞かせを実践し、連携を深めた。3年生が保育園児のどんぐり拾いの補助に取り組み、異校種間交流を継続できた。</p>
	③自己肯定感・有用感を高める教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等での計画的な実施</li> <li>・互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進</li> </ul>	A	<p>○生徒の自己評価において、授業への意欲的な参加や楽しく学校生活を送れているかという問いについて、肯定的な回答が90%を上回っている。</p> <p>●自己肯定感・自己有用感・他者理解を意識した授業づくりを更に深めるため、教職員のスキルアップに取り組む。</p>

<p><b>5 総合評価</b> (学校関係者評価を含む)</p> <p>○指導訪問・授業研究会・研修を通して、学校全体としてリフレクションシートを活用した授業参観・フィードバック・学力向上プランの見直しを実践し、共有した。</p> <p>○教師がタブレット端末と大型提示装置を適切に活用し、授業展開を行うことができた。</p> <p>○いじめ防止対策委員会と生徒指導委員会を計画的に実施し、いじめの認知・対応・見届けまでを、保護者対応も含めて組織的に取り組むことができた。</p> <p>○養護教諭・さわやか相談員・SC・SSWとの連携のもと、支援が必要な生徒について教育相談部会や学年会を通して丁寧に情報共有し、個々の状況に応じた対応を行った。</p> <p>○企画委員会・準備委員会を通して校務分掌の内容を精査し、業務量や困難度に応じた区分けを行い、業務負担の偏りの是正を図った。また、校内学校評価をもとに、校務分掌の再編と分掌主任のメイン制度(学期ごと)の検討を行った。</p>
<p><b>6 次年度の改善策</b></p> <p>●校務分掌の再編を行い、業務の分散を図る。また、分掌主任への業務集中を是正するため、分掌主任を学期ごととするメイン制度を、準備委員会で検討して実践する。</p> <p>●ICTを生徒が十分に活用する授業展開に向け、学校全体として研修を行い、スキルアップに取り組む。</p> <p>●学校生活アンケートや教育相談期間等を活用し、養護教諭・相談員・SC・SSWとの連携を生かして、個々の状況に応じた教育相談対応をさらに充実させる。</p> <p>●今年度向上したホームページを生かし、さらに学校の様子を効果的に発信する。学年ごとの取組については、学年便りを通して生徒の活動状況を保護者に分かりやすく伝える。</p> <p>●幼保小中連携・幼保小中を一貫した教育の在り方や具体的な活動方針について、幼保小中連携推進委員会において積極的に議論し、実践する。</p>